

撫養川親水公園リューネブルク広場__円形ステージドームテント

鳴門市市民環境部文化交流推進課 副課長 百井一芳

1. はじめに

鳴門市は四国の東部、徳島県の北東端に位置しており、神戸から80km、大阪から100kmと、徳島県はもとより四国の中で阪神経済圏に最も近いという地理的条件から、古くより都と四国を結ぶ南海道の門戸として栄えてきました。

本市の北部は瀬戸内海国立公園に指定され、北に播磨灘、東に紀伊水道をのぞみ、鳴門海峡の急流と逆巻く渦潮でその名を知られた景勝地です。

鳴門公園やドイツ館など多数の観光地を抱える県下有数の観光都市であるとともに、地元発祥の大塚グループ関連の工場や企業、施設が多数立地する企業城下町の側面も持ち合わせています。

平成10年に神戸淡路鳴門自動車道が開通、さらに平成14年には高松自動車道が全線開通したことから、四国・本州の交流拠点都市として、恵まれた自然や歴史、文化などの観光資源を有機的に結んだ広域観光誘致事業を展開するとともに、全国的に高い評価を受ける「なると金時」「れんこん」「鯛」「鳴門わかめ」等をはじめとする農水産物も豊富で、京阪神の生鮮食料基地としての役割を担っています。

第一次世界大戦時鳴門市にあった板東俘虜収容所でベートーヴェンの第九交響曲が日本で初めて演奏されました。このことを記念して昭和57年から市民による「第九」演奏会が続けられ、来年で30周年を迎えます。

現在では、「第九のふるさと」として、全国から多くの合唱団員が参加し、全国に誇る「鳴門の第九」として成長しています。

この板東俘虜収容所でのドイツ兵俘虜と地元住民との心温まる交流がきっかけで、昭和49年(1974年)にドイツ・ニーダーザクセン州リューネブルク市と姉妹都市盟約を締結。以来、35年にわたって相互に親善使節団を派遣して交流を深めています。

近年、中国青島市との交流も始まり、国際交流におけるさらなる進展が期待されています。



第29回第九交響曲演奏会

2. 水辺施設の整備

今回紹介する撫養川親水公園リューネブルク広場は、鳴門市の東部に位置し、市の歴史に深い関わりのある撫養川沿いに整備されました。

撫養川河口にある撫養港はかつて四国随一の港で、海上交通や河川交通を通じて京阪神から物資とともに情報と文化が出入りし、撫養川とともに鳴門の顔であり四国全体の顔といえる地域でした。

市の中心を流れ都市の魅力づくりには欠かせない位置にある撫養川・新池川は、昭和63年に建設省(現国土交通省)により「ふるさとの川モデル河川」に指定され、水と緑と、背後の町並みからなる美しい魅力いっぱいの河川空間を形成し、四国と近畿圏が交流する拠点都市にふさわしいシンボル広場として、六つのゾーンに分けて周辺地帯と一体的に整備されました。



撫養川親水公園広場全景

撫養川親水公園リューネブルク広場はこの内の一つ「交流・ふれあい・文化ゾーン」に整備されました。

このゾーンは本市文化の中心となる「鳴門市文化会館」を含み、広場に続く遊歩道には、ドイツ・リューネブルク市との姉妹都市関係にちなみ、グリム童話をイメージした「グリメルヘンプロムナード」など、趣向を凝らした施設が設置されています。

また広場には、直径約12mの円形ステージや多目的の広場などがあり、音楽会などのイベントにも活用できるよう整備されました。

平成20年10月には、広場にリューネブルク市との交流シンボルモニュメントを設置、また、広場を「リューネブルク広場」と命名し、イベントを開催するなど、市民への浸透を図っています。

3. 施設説明

この広場は、ウォーキングやファミリーによる一般公園的な活用の他、春から夏にかけては、阿波踊りの練習などにも利用され、また、花火大会も開催されるなど、憩いの場所、潤いの場所として、四季を通じて多くの市民に利用されています。

しかしながら、広場の円形ステージには屋根が無く、イベントでの音楽演奏など、少しでも雨が降ると演奏を中止せざるを得ないなどの理由から、積極的な活用がされていませんでした。そうした不安もあり、広場自体を活用したイベントは徐々に開催が減少してきました。

市の考える広場の新しい活用のためには、実用的かつシンボリックな施設が必要であると考え、この度（財）リバーフロント整備センターが（財）日本宝くじ協会の助成を受けて行っている「水辺施設の整備事業」で、この円形ステージにドーム型テントを設置していただきました。



円形ドーム型テント

このドーム型テントは、底部直径11.5m、最大高5.76m。膜材に酸化チタンがコーティングされ太陽光と反応して、表面の汚れを除去するセルフクリーニング仕様で、メンテナンスが不要となっています。



ドーム型テントのある広場全景

4. 整備の効果

ドーム型テントの設置により、従来に増してイベント開催や散策時の休憩等での利用など、多くの市民が憩いの場として利用しています

また、他市からもNPOがボートクルージング事業としてクルージングの途中に広場を訪れるなど、人の交流が活発になり、にぎわいが生まれてきています。



市民による音楽会のイベント

鳴門市が四国東部の中心として、また、国際都市として発展するために、撫養川沿いに主要な文化施設を集めるとともに、隣接するスポーツ活動の拠点の鳴門・大塚スポーツパーク（徳島県鳴門総合運動公園）と一体的に整備し、やすらぎ・自然とのふれあい・スポーツ・レクリエーション・健康運動・娯楽・芸術文化活動など、多様な活動を行う場として、市民主体による様々な活用をバックアップしながら、鳴門の新しいにぎわいが生まれる水辺の文化複合空間にしたいと考えています。



リューネブルク市親善使節団との交流イベント風景